

プラタナス

那須赤十字病院 広報誌

No.09

平成27年4月発行

Japanese Red Cross Nasu Hospital

 **日本赤十字社** 那須赤十字病院
Japanese Red Cross Society



診療科紹介

呼吸器内科について

登録医紹介

小林内科外科医院

看護師紹介

糖尿病看護認定看護師

部門紹介

検査部

マイタウン・マイホスピタル

ミニニュース

新任医師紹介

研修医修了式

呼吸器疾患は私達が専門的に カバーします!!



後列左から 田宮副部長、穴戸研修医、池野部長、福島部長
前列左から 崎尾部長、阿久津副院長、亀井医師

呼吸器内科について

副院長兼内科統括部長兼呼吸器内科部長 阿久津 郁夫

呼吸器系(気管・肺)は空気中の酸素を身体に取り込み、老廃物の二酸化炭素を吐き出す機能を持つ、私たちが生きていくためになくしてはならない重要な臓器です。酸素は身体のすべての細胞で必要とされるものですから、肺が病気になるると全身に悪い影響がおきます。酸素欠乏の症状は、実は健康な皆さんも体験しています。100mを全力で走ったらどうでしょう? 血液中の酸素が筋肉などで使われ低下してしまうので、息苦しくなり、ハーパーと速い呼吸になります。これは速く呼吸することで、血液中の酸素の低下を回復しようとしている生体反応です。元氣な皆さんは、1分もたたないうちに息切れは回復しますが、呼吸器系の病気の患者さんは、そう簡単に回復しませんし、100m走るところか、ちょっとした早歩きや、わずかな傾斜の坂道や階段の上り下りでも息が切れ、回復までも相当時間がかかります。また、呼吸器の病気になるような理由から、咳が出たり、痰が出たりします。

2020年度の世界保健機構(WHO)の死因予測によると、3位はCOPD(肺気腫・慢性気管支炎)、4位は肺炎、5位は肺癌、7位は結核と呼吸器疾患が上位を占めることが予想されています。これらに加え、気管支喘息や、睡眠時無呼吸症候群(SAS)などの病気が、私たちが診させてい

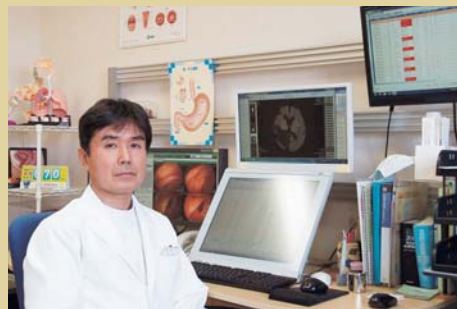
ただいている主な疾患になります。

那須赤十字病院の呼吸器内科には6名の呼吸器内科医がいます。うち3名は医学博士、呼吸器学会専門医、アレルギー学会専門医、2名は内科学会総合専門医、他に呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医、感染症専門医、肺癌CT検診認定医など、呼吸器系疾患を極めて専門的にカバーできるチームですので、安心しておかかりいただけます。

肺癌は、気管支鏡という他病院で施行される検査に加え、より診断率の上がる超音波気管支鏡や胸腔鏡検査ができます。治療も化学療法(抗がん剤)、放射線療法など、患者様と相談しながら選択します。肺炎は原因の菌を見つけ出し、最も適切な抗生物質を選択することで効率よく治療します。COPDなどで酸素が慢性的に欠乏した場合には、自宅で比較的気軽に酸素療法をおこなったり、人工呼吸器を使うこともお手伝いします。いびき・日中の眠気のある方は睡眠時無呼吸症候群の疑いがありますので、当院で専門的検査(ポリソムノグラフィ)を受け、治療をされることをお勧めします。喫煙は肺疾患のみならず、様々な癌、狭心症・心筋梗塞、脳梗塞など大きな健康被害をもたらしますので、禁煙外来をご利用ください。禁煙は無理と思っているあなたも70%強の方は成功します。

小林内科外科医院

診療所の先生方はみなさんの健康を支えてくれる心強いパートナー。こちらのコーナーでは日々当院と連携いただいている診療所の先生を紹介していきます。今回は「小林内科外科医院」をご紹介します。



小林伸久院長

小林内科外科医院

対象疾患 内科・外科
得意分野 外科、消化器内科、訪問診療

先生にインタビュー

当院との医療連携について期待されているのはどの様なことですか？

現在でも日赤には、当院からの緊急紹介患者の皆様も、かなりの確率で受け入れていただき感謝しています。また、専門科への紹介や画像診断依頼も地域医療連携室のご配慮で円滑です。今後も県北地域医療の砦として質の高い医療をお願いします。また、当院では通常の外来診療のほかに訪問診療も行っていますが、日赤での治療後に在宅医療を希望する患者さんをご紹介いただくことが多く、訪問診療症例の65%は日赤からの紹介です。また、その内訳はがん症例60%、非がん症例40%です。退院前のカンファランスにはなかなか出席できませんが、訪問看護ステーションも含め、今後も連携を密にとっていきたいと思います。

毎日忙しいと思いますが、休日はどう過ごされていますか？

5歳の三女と遊ぶのが楽しみです。公園に行ったり、図書館に行ったりしています。最近は私の言葉遣いや食事の仕方、生活態度にいろいろ注意をします。

最後に地域の方々、患者さんへ一言お願いします

A1 現在は情報システムによる病院と診療所の連携も進んでおり、患者様の同意のもとに病院における診療情報（検査データ、画像など）を、インターネットを用いた診療所でも確認できます。当院でもこのシステムを活用しており、病院へ紹介した患者様の診療結果や、入院後の診療経過を把握したり、過去に病院で治療していた場合はその情報を得たりして、日常診療に役立てています。

A2 今後どの地域でも超高齢化の時代となり、医療では「治す医療」から「支える医療」への転換が、地域社会では「住み慣れた地域で、最後まで、自分らしく暮らせる社会」の形成が課題となります。つまり、一から十まで病院に依存するのではなく、病院での専門治療が一段落したら地元に戻ってかかりつけ医に診てもらい、必要であれば在宅医療を行い、介護サービスや施設も有効に利用し、地域も協力して生活を支えていく必要があると思います。地域の皆様にもこのような流れがあることをご理解いただきたいと思います。

基本情報



小林内科外科医院

- 院長
小林 伸久(こばやし のぶひさ)
- 住所
大田原市富士見1-1606-265
- 電話
0287-23-8870
- 診療科目
内科、外科、消化器内科、肛門内科
- 休診日
水曜日午後・日曜日・祝日



糖尿病透析予防支援チーム

患者さんとご家族が糖尿病を理解し
前向きに療養に取り組んでいただけるよう
そして、ずっと笑顔でお元気に過ごしていただけることを
目標に日々励んでおります

糖尿病看護認定看護師 相馬 幸子

みなさま、お元気ですか。寒く長い冬が終わり春到来ですね！

縮こまり硬くなっていた体中の血液がとくとくと元気に流れ出し、のびのびと身も心もほぐれるようで、私はこの季節が一番大好きです。

私は那須赤十字病院内科外来に勤務しています。今回は糖尿病看護認定看護師としての私の活動をご紹介します。

認定看護師とは公益法人日本看護協会が、看護現場における看護ケアの広がりや質の向上をはかることを目的とした資格制度で、現在、全国に672人、栃木県に8人の糖尿病看護認定看護師がおります。

糖尿病の治療は食事と運動が基本であり、内服薬やインスリン注射などの薬物療法があります。その一つ一つが日々の生活の中で患者さん自身が取り組むものであり、それは生涯続きます。言葉では簡単ですがとても大変なことです。5年前私は、糖尿病の悪化や糖尿病腎症、足壊疽などの合併症で入院された患者さんに対し、糖尿病の療養支援の難しさから掛ける言葉も見つからず悩む日々を送っていました。そしてこの経験がきっかけとなり、糖尿病看護認定看護師になることを決めました。

現在は主に外来での糖尿病療養相談を担当し、糖尿病をもつ方が仕事や家庭、趣味や

生きがいなどを大切にしながら療養を上手く生活の中に取り込めるよう、食事や運動の工夫を提案し、一緒に考えてお手伝いできるよう励んでいます。患者さんご自身の体のことや、糖尿病の状態を理解していただけるよう糖尿病や治療についてお話しさせていただき、インスリン注射や自宅での血糖値測定の練習などもお手伝いしています。

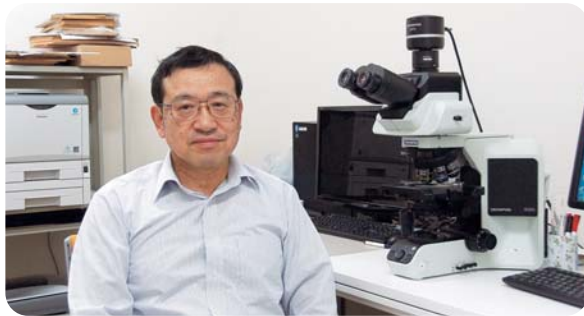
医師や薬剤師、検査技師、管理栄養士、理学療法士（リハビリ）、歯科衛生士と共に糖尿病教室を開き、糖尿病腎症による透析を防ぐため、糖尿病内分泌内科医師、管理栄養士、透析看護認定看護師のチームで療養支援も行っています。

学校で学んだ以上に、現場で教えてもらう事がとても多く感じます。血糖値がよくなれば患者さんと一緒に喜び、なかなか良くならない採血結果の患者さんと共に落ち込み悩むこともしばしばです。時には世間話に花が咲き、時には患者さんから人生の先輩としてアドバイスをいただく場面もあります。

患者さんが10人いれば10通りの生活があり病態も治療も様々です。お一人お一人の糖尿病や療養に対する思いに寄り添い、その方にあつた療養支援をこれからも大切にしていきたいと考えております。



検査部スタッフ 前列右から3番目が杉江検査技師長



病理医 川井検査部長



輸血用血液製剤

信頼される検査部を目指して

検査部検査技師長 杉江 和明

検査部は、臨床診断・経過観察などのために正確で迅速な報告が求められています。私たちは24時間体制で、必要な時に直ちに対応できる検査態勢を敷き、臨床ニーズに対応できる検査部を目指しております。

現在、外来において採血から検査報告までを運用管理しています。検査部業務は大別して採血、検体検査、輸血検査、生理検査、細菌検査、病理検査から構成されています。今回、輸血・病理部門を紹介いたします。

【輸血部門】

当院では輸血を行う患者が1カ月に約百人以上います。事故による出血、手術による出血、吐血・下血などの出血、白血病などの血液疾患など、輸血を必要とする患者さんは多種多様であり、緊急輸血を必要とする患者さんもいます。

輸血検査は全自動輸血検査システムを用いて血液型、不規則抗体検査を実施し、24時間精度の高い検査結果を提供し患者さんに副作用が起きないように細心の注意を払っています。安全な輸血を実施するために輸血同意書の確認、血液型検査の2回実施を必ず行います。

輸血用の血液を常に在庫し必要な時に迅速な輸血治療ができる体制をとっています。

また、輸血に使用する血液は、善意の人たちの献血による提供されとても貴重な血液で無限にあるものではありません。病気の治療に必要な時にその血液を有効に使うため輸血治療を行い、無駄のない輸血管理を目標に行っています。

【病理部門】

病理検査とは、人の体を作りあげている細胞や組織の変化を顕微鏡で見ても病気の診断を決める重要な検査です。がんをはじめ多くの病気は病理検査によってはじめて診断が確定し、患者さんは正しい治療を受けることができるのです。この病理診断を専門とする医師が病理医です。常勤の病理医1名、非常勤病理医1名、臨床検査技師5名（内細胞検査士4名）でこの病理・細胞診業務を行っております。当院では、手術中に組織の断端にがん細胞があるか、転移があるかを調べる「術中迅速検査」も行っており、より良質な医療を提供しております。

2月 子供達が元気に鬼退治

院内託児所ポケット/2月3日(火)

1年の無病息災を願い、託児所では子供達が元気に鬼退治をしました。この行事は日本の風習と季節感に触れることを目的に毎年行われています。

大泣きする子もいましたが、鬼に扮する先生達を前に大興奮のようでした。



鬼は外、福は内〜♪

3月 院内防火訓練の実施

4階西病棟/3月10日(火)

消防法に基づき、院内防火訓練が産婦人科病棟で実施されました。今回は、新生児に見立てた人形を避難させる訓練も行いました。職員は自衛消防組織(※1)により行動し、真剣な面持ちで訓練に参加しました。



消火ホースも登場

新型インフルエンザ患者発生時対応実地訓練

参加者120名/3月12日(木)

県北地区で新型インフルエンザ患者が発生した場合を想定し、第2種感染症指定医療機関(当院)(※2)への患者移送及び患者対応訓練が実施されました。

県北各福祉センター、県北各医師会、管内消防本部が参加し、防護服の着脱や当院受入れの演習・確認・検証を行いました。



防護服を着て患者移送(訓練)

車椅子5台とボランティアエプロンの寄贈

那須赤十字後援会/3月17日(火)

那須赤十字病院後援会より、今年度は車椅子5台とボランティアエプロンの寄贈がありました。現在の後援会の会員数は法人149団体、個人220名です。公的医療機関として病院が適正かつ円滑に運営されるようご支援いただいております。

車椅子は患者さんに、エプロンはボランティアの方々にご使用いただけます。



玉木後援会長(右)と北島院長(左)

4月 新たな力が加わり新体制に

辞令交付式/4月1日(水)

今年度は新入職員64名が加わりました。患者さん・地域の皆様からの多様なニーズに応えられるようこれから頑張ってください！

どうぞよろしくお願いいたします。

自衛消防組織(※1) 消防法に基づいて設置される人的組織。
第2種感染症指定医療機関(※2) 感染症病床を有する指定医療機関。



がんばれ、フレッシューズ！

「わたしたちが皆さんの健康をサポートします！」
新しく那須赤十字病院で働く先生を紹介いたします。



内科
渡部 伊織



内科
亀井 亮平



内科
加瀬 正人



整形外科
梅澤 仁



整形外科
西田 有正



整形外科
菊池 駿介



外科
後藤 卓也



外科
磯部雄二郎



小児科
福田 啓伸



小児科
渡部あずさ



産婦人科
樋口 敦彦



産婦人科
太田 邦明



形成外科
形成外科副部長 鳥海 正博



形成外科
伊原 淳



泌尿器科
泌尿器科部長 阿部 英行



耳鼻咽喉科
酒井 瑞乃



放射線科
坂本 学映



救急集中治療部
田崎洋太郎



歯科口腔外科
歯科口腔外科部長 伊藤 弘人



歯科口腔外科
薄井 直



歯科口腔外科
青山 裕美



初期研修医
穴戸 宏行



初期研修医
宮崎 郁



初期研修医
岡本 泰治

研修医修了式

2015年3月24日、3人の研修医たちの修了式がマイタウンホールでとり行われました。那須赤十字病院へ名称変更後、研修医として採用された第1号となる先生方です。



北島院長より、修了証が授与されました。



上杉副院長から、花束が授与されました。



左から 飯野宏允医師、高村雄太医師、毛塚彩奈医師

那須赤十字病院で学んだことを活かし、それぞれの路で大活躍されること、間違いなしです!! 2年間の研修、本当にお疲れ様でした。 研修医…医学部を卒業後、国家試験に合格して医師免許を取得し、一定の病院で実地の臨床研修を受けている医師。

乳がん患者会へのお誘い

乳がんで治療中の方を募集します。

問合せ：那須赤十字病院 がん相談支援センター
担当(水野 070-6459-8711・野中)

がんのつどい

平成 27 年 5 月 2 日(土)
10:00~11:00
那須赤十字病院会議室 1・2
看護師とのかかわり方

アドバイザー：がん看護専門看護師

水野 恵美

平成 27 年 6 月 6 日(土)
10:00~11:00
那須赤十字病院会議室 1・2
お薬のこと

アドバイザー：薬剤師 内藤 裕之

※申込不要。直接お越しください。

インターンシップのご案内

平成28年4月に就職する看護師の方を対象にインターンシップを行います。

2015年5月1日(金)、7月22・29日(水)、8月5・12・19・26日(水)、9月2日(水)

申込先・問合せ：
那須赤十字病院 看護部
☎0287-23-1122(代)

第8回 がんの市民公開講座

平成 27 年 7 月 4 日(土)
13:00~15:00
那須赤十字病院 2 階
マイタウンホール

「共に支え共に生きる」

宝塚市立病院 沼野 尚美 先生

申込先・問合せ：担当(入田)
☎0287-231122(代)

編集後記

暖かな日差しに誘われ一歩外に出るとさわやかな風と、土の優しい香りが全身に染み渡ります。新たなスタートとともに、いよいよ「春」ですね。大きく一息、新たな気持ちで頑張らしましょう。

総務課 秋元英輝

今回の表紙

4月はじめ、研修の合間を縫って、新入職員たちが屋上ヘリポートでハートをかたどってくれました♡♡

本誌へのご意見・ご感想をお聞かせください! プレゼント

抽選で3名様に「CroKuma救護服」「CroKumaナース」「赤十字マグカップ」をプレゼントいたします。

以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールにてご応募ください。

●応募先

郵送/ 〒324-8686 大田原市中田原1081-4
那須赤十字病院 総務課 プラタなす第9号 プレゼント係
FAX/ 0287-23-3004

宛先「総務課 プラタなす第9号 プレゼント係」

メール/nrchp@nasu.jrc.or.jp

件名「プラタなす第7号 プレゼント係」

●応募締切り 2015年5月31日(日)

※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。



平成27年度社員募集について

日本赤十字社では、日本赤十字社の創立の月にあたる5月を中心に、毎年**赤十字社員増強運動**を全国一斉に行います。

赤十字社員増強運動とは、一人でも多くの方々に日本赤十字社の「社員」に加入していただき、赤十字の事業に参加していただくための運動で、皆様からご協力いただく資金(社費)によって、日本赤十字社は国の内外における災害救護活動を始め、血液事業や国際救援活動、社会福祉事業などの数々の人道的活動を円滑に行うことができます。ご協力をお願いします。

○運動の期間 | 平成27年5月1日から5月31日まで
(地域によって6月、7月になる場合もあります)

お問い合わせ 那須赤十字病院 社会課

日本赤十字社の社員とは

赤十字の目的や事業を理解いただき、毎年500円以上の資金(社費)を納めていただく個人、法人を指し、赤十字の基盤となっております。「社員」は人種、国籍、信条、性別などによって差別されることなく、だれでも「社員」になることができます。

那須赤十字病院

基本理念

マイタウン・マイホスピタル
～地域に根ざし、ともに歩み、心ふれあう病院に～

基本方針

1. 赤十字基本原則に則り、地域のための医療を提供します。
2. 患者さまの立場を尊重し、患者さまに信頼される病院をつくりたい。
3. 日々の研鑽を惜まず、医療の質の向上に努めます。
4. 保健・医療・福祉施設との連携を密にし、地域医療の発展につくします。

プラタなす 那須赤十字病院広報誌プラタなす No.9

発行日 2015年4月

発行者 那須赤十字病院 〒324-8686 大田原市中田原1081番地4

TEL 0287-23-1122 FAX 0287-23-3004

URL <http://www.nasu.jrc.or.jp> 印刷 株式会社 松井ピ・テ・オ・印刷